

図書館 NEWS 2016・3月号

発行：天城中・高図書委員（1年1・2組 伊禮・小西・中村・高橋）

3月 図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
28	29 ○	1 ×	2 ◎	3 ○	4 △	5
6	7 ◎	8 ○	9 ○	10 ×	11 ×	12
13	14 ○	15 ○	16 ×	17 ○	18 ○	19
20	21	22 ○	23 ○	24 ×	25 ×	26
27	28 ×	29 ×	30 ×	31 ×	1 ×	2

みなさんこんにちは！

3月1日は高校、3月16日は中学校の卒業式があり、出会いと別れの春がやって来ました。心機一転で何事も頑張っていきましょう！

男子のみなさんは、3月14日のホワイトデーももちろんお忘れなきよう★

×…閉館日 ○…開館日 ☆…図書館開放日

◎…開館延長日(17:45 まで) △…昼と放課後のみ

読書のすすめ 「未来を開くカギは身近なところに」 光嶋 央貴（高校1年・理科）

「わたし、気になります」

このセリフは米澤穂信の古典部シリーズ（『氷菓』、『愚者のエンドロール』、『クドリヤフカの順番』、『遠回りする雛』、『ふたりの距離の概算』）の登場人物である千反田えるの口癖だ。気になることがあれば、とにかく調べなければ気が済まない、そんな女の子である。私自身も理系なせいか、これらには感情移入がしやすかった記憶がある。

さて、実は私自身あまり本を読む人間ではなかった。しかし、転機は中学2年生、部活の後輩から宮部みゆきの『プレイブストーリー』を紹介された。見た目はとても分厚く、こんなもの読めるのだろうかと思ったが、不思議なものであっという間に読み終えてしまったことを覚えている。それから、高校や大学で、哲学・心理学・生物学・食品学など、様々なジャンルを図書館で借りていた。最近では、初野晴の『ハルチカシリーズ』を読んでいる。

ところで、現代はインターネットが発達し、調べものは大抵スマホかパソコンで終わってしまう。また、電子書籍も登場し、手軽に活字に触れられる。そんな世の中ではあるが、なぜだか紙媒体の本や新聞がなくなる気配はない。一体なぜだろうか？ それらの理由として、ある調査で「紙をめくる感覚がよい」、「本がそこにあるという存在感（本の装丁）がよい」という意見が挙げられている。便利になった現代であるが、まだまだ紙の本がなくなる未来は遠そうである。

最後に私見だが、本を読むきっかけはきっとあなたのすぐ近くに転がっている。見えない人も見ようとしていないだけかもしれない。あとは、それをあなたが拾い上げるかどうかなのだ。一度でいいから、一歩踏み出して図書館の扉を開けてみませんか。きっと、日常にいながらにして、非日常を感じることができるはずだ。



春・卒業特集

『ちびギャラ』

絵・文 ボンボヤージュ



今回は春特集！という事で『ちびギャラ』を紹介します！！
ちびギャラは元気・勇気が出るような温かい言葉・おもしろいネタ的な言葉がかわいい絵と共にたくさんついています！
すごく癒されます(笑)…春って何かと変化が多くて疲れちゃう人、癒されたい人、そしてそこのあなたにもってこいの本！

ちびギャラ読んで ^{ヒットポイント} H P 回復しませんか！？

みんなで元気になっちゃいましょう！

～へこたれることもありますよそりや、でも…負けてられないでしょ！！～

【ちびギャラなな半】より

『勇気』

著 バーナード・ウェーバー / 訳 日野原重明

春→一期一会→周りの変化→いろんな事がある→勇気がいる…。
という安直な連想からこの本紹介します！

この本は、勇気とはいつも身近にあるものだと再確認できる本(絵本)だと思います。この本を読んでもう一度自分の気持ちをリセットしてみてもいいのではないのでしょうか…。勇気とはすごいもの、毎日出会うもの、色んなカタチがあります。そして、日々私達の心の中に存在し続けています。



『少女は卒業しない』

著 朝井リョウ



舞台は三年生の卒業と共に廃校になることになったひとつの高校。

大好きな図書の先生と。退学してしまった幼馴染みと。

涙する姿に心動かされた生徒会の先輩と。

部内公認で付き合っているアイツと。

放課後の音楽室で歌っていた素敵な歌声のバンドリーダーと。

口数が少なく絵の上手なただひとり心を許せる友達と。

亡くなってしまった彼女に対してずっと抱えていた想いと。

「さよなら」をする七本の短編小説詰めです。

どれもハッピーエンドではないけどバッドエンドともいえない。

ちょっぴり切ない気分になりたい時におすすめの一冊です！

部長にインタビュー in 剣道部

～剣道部の紹介～

剣道部は学年、男女関係なく日々切磋琢磨しています。

～オススメの本～

『学年ビリのギャルが1年で偏差値を

40上げて慶應大学に現役合格した話』



～オススメの理由～

僕は勉強したくないと思う時は、この本のことを思い出します。主人公であるさやかちゃんと家族が、どのような努力をして慶應大学に現役合格したのかがこの本には書いてあります。同じ受験生という立場で読むととても共感できるところや、逆に耳が痛くなるところもありました(笑)
ということで、この本のことを思い出すと、自分も負けていけないと思います。皆さんも是非高校生の間に読んでみてはいかがでしょうか？

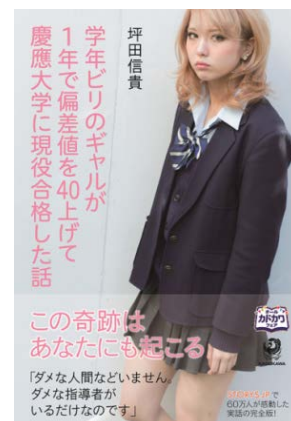
インタビューへのご協力ありがとうございました(*^_^*)

部長さんオススメの本は図書館にもあります。

興味がある人はぜひ読んでみてください！

『学年ビリのギャルが1年で偏差値を
40上げて慶應大学に現役合格した話』

著 坪田信貴



天城中学校図書委員会より

図書委員 3C 駒城・1A 石合

卒業式のシーズンとなりました。「別れ」をテーマに感動できる本を紹介します。

とかげ 吉本ばなな

表題作の「とかげ」をはじめ、過去に傷を負う主人公たちがそれぞれ許され、先へ進んでいく物語。

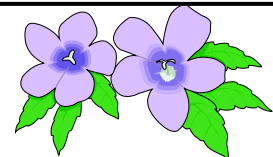
「だからね、だれか 神様みたいなこの世の決まりごと担当の人がいて、『これはあんまりだから絶対にあってはいけない』とか『この人はここまでなら大丈夫だから』とか見ててくれればいいのに。でもない。もしもいるなら止めてくれればいいのにね。でも止めてくれない。自分でやるのね。どんなにひどいことを見ても、何でも起こりうるって思うしかないのね。」



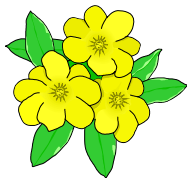
とかげの悲しい言葉から、繋がっていくラストは何度読んでも涙が出ます。

もしも今のパートナーに秘密があるなら、それが負い目であるなら、ぜひ読んでほしい一冊です。

なるかみの午後 今村葦子



夏。少年。一つの出会いと二つの別れ。揺れ動く心を励ます温かい一冊。



天球儀文庫 長野まゆみ

少年二人。綺麗事だけど、それでも感動する美しい一冊。

